

特集：先住民運動の政治化

グアテマラにおける先住民族と政治参加

狐 崎 知 己

2007年9月に実施されたグアテマラ総選挙（第1回投票）において、大統領候補リゴベルタ・メンチュウは候補者14人中の第7位、得票率わずか3%という惨敗に終わった。92年にノーベル平和賞を受賞したメンチュウは、国際社会における先住民族の権利擁護運動の象徴的存在であり、国内においては史上初の先住民女性の大統領候補として国内外のメディアの注目を集めた。先住民族の人口比が半数前後を占めるグアテマラにあって、著名な「先住民候補」の惨敗要因を問う声は、今回選挙をめぐるFAQのトップを占めるだろう。候補者の資質や選挙戦術の巧拙といった問題とは別に¹、以下、エスニシティと政治参加に関する理論的考察をベースに、グアテマラにおける先住民族の政治参加の実態と展望について論じてみたい。

民主主義が自由かつ公正な選挙を通して市民に対する政治的平等を保障する制度だとするならば、民主化の進展は多数派を構成する市民に対して政治権力を与えることで、制度改革を促し、公共政策を通した優先的な便益配分をもたらすと仮定できる。グアテマラでは96年の和平協定締結以来、国際的な選挙監視のもとで3度、総選挙が実施されているが、一部地域での混乱を除いては、おおむね自由かつ公正な選挙であったとの評価

が下されている。一部地域における先住民女性の有権者登録と投票率の際立った低さを除いては、先住民族と非先住民族の間に投票率の有意な差異がなく、基本的に一人一票の平等原則が行使されている（表1）。

この結果、地方政治の舞台では自治体全体の3分の1強、先住民人口比が半数以上を占める自治体に限ってみれば、8割弱の自治体で先住民市長が誕生している（表2）。

表1：2003年選挙における
エスニック集団別ジェンダー別投票率

	有権者 登録	投票率	
		対有権者登 録比	18歳以上 の人口比
ケクチ	57.9	72.2	41.8
男性	78.1	79.2	61.8
女性	36.8	56.7	20.9
キチェ	68.5	73.9	50.6
男性	83	84.3	70
女性	56.7	61.5	34.9
カクチケル	73.7	73.9	54.5
男性	84.7	83.3	70.6
女性	63.3	62.2	39.4
マム	64.9	71.3	46.3
男性	86.8	85.8	74.5
女性	47	49.4	23.3
非先住民	78.4	74.2	58.2
男性	85.9	79.9	68.6
女性	71.8	68.3	49.1
合計	74.5	74.2	55.3
男性	85.2	81.4	69.4
女性	65.1	65.8	42.9

出所：TSE (Tribunal Supremo Electoral)

表 2: 先住民市長数の推移

県名	先住民人口が 50%以上の自治体 数	先住民市長数					
		1985	1990	1995	1999	2003	2007
アルタベラパス	16	9	5	5	11	11	NA
ソロラ	19	16	16	17	17	17	17
ウエウエテナンゴ	22	20	20	20	21	21	22
グアテマラ市	4	4	2	4	4	3	4
ケツアルテナンゴ	17	15	12	11	12	13	14
16 県合計	156	128	107	110	122	122	129

出所: TSE 資料より筆者作成

表 3: 国会議員に占める先住民議員比率

	1985	1990	1995	1999	2003
先住民議員数	4	8	6	11	12
非先住民議員数	96	108	58	89	146
先住民議員比率	4	7	9	11	8

出所: TSE 資料より筆者作成

だが、公的支出の配分状況を自治体単位で分析してみると、従来から極端な首都偏重と指摘される歪みが改善された証左はなく、先住民人口比が25%以下である149の自治体に公的支出の64.2%が集中的に投入されている反面、先住民人口比が76%以上を占める128の自治体には同23.8%しか支出されていない³。先住民市長の誕生が教育や保健といった社会投資のターゲティング、すなわち貧困度やこれに密接に相関する先住民人口比率に応じた公的支出の優先的配分をもたらしていないのである。

以上の問題については、二つの仮説を提示するに留めたい。第一に、先住民市長が必ず

しも選挙区における「先住民」票を代表しているとは限らず、クライアンテリズムが主たる政治動機になっているという仮説⁴。第二に、地方と中央の双方の改革勢力が同盟してはじめて、全国的な制度改革が進展するという仮説である⁵。

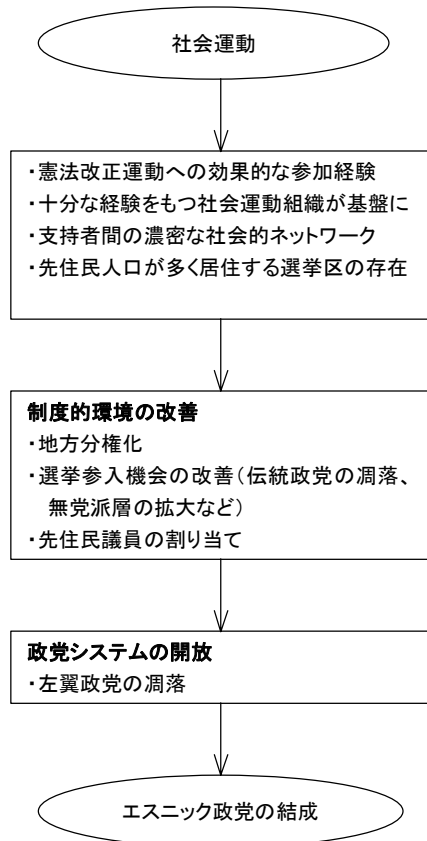
国会議員に占める先住民人口比率は、過去2回の選挙において10%前後を占めるにすぎず、主要政党の執行部における先住民メンバーも極端に少ない(表3)。しかも、これらの議員は、「エスニック政党」を結成して当選したわけでも、先住民の権利伸張を主要な綱領に掲げる政党を代表して、先住民票を集めたわけでもない。1990年代以来、ラテンア

メリカ諸国においてエスニック集団の政治参加が拡大し、政治権力の獲得や憲法改正などの制度改革を達成しているなかで、なぜペルーと並んでグアテマラでは先住民政党の結成に成功せず、先住民族の権利を代表する政治家が誕生しないのだろうか。グアテマラにおける先住民運動の指導者や知識人たちは、リーダーシップや団結力、結束イデオロギーの不足などをその要因として指摘するが、これは単に先住民政党の不在現象を表現として言い換えたにすぎず、分析になっていない。

ある国の社会的亀裂がエスニシティを主軸に構成されているとしても、エスニック集団を単位とする政治運動が起こり、政党が結成され、選挙で成功を収めるには、さまざまな前提条件が満たされる必要がある。Van Cott は、アンデス諸国におけるエスニック政党の結成を比較分析した結果、図1のような成功モデルを抽出した⁶。

エスニック政党の誕生と成功には、まずその大前提として、エスニック社会運動の十分な経験蓄積と濃密なネットワークの存在が必要とされる。そのうえで、伝統政党の凋落がもたらす政党システムの分断化や地方分権化といった制度的環境の変化、ならびに左翼政党の衰退という状況要因が必要となる。その結果、新規政党の参入が一般的に容易になるうえ、新興エスニック政党が没落左翼政党のリゾースを取り込み、増大した無党派層の抱く既成政治への不満を巧みに吸収することができれば、選挙での躍進が期待できる。政治権力の獲得には、非先住民政党との連合も欠かせない（図1）。

図1: エスニック政党結成の成功モデル



出所: Van Cott 2005: 222, Figure 7.1 より作成

以上のような「成功モデル」に照らして、グアテマラに欠けている要素は何であろうか。二大ないし三大政党制が確立している中米諸国にあって、グアテマラのみ政党システムの分断と政党の盛衰が著しく、新規政党の参入は容易である。紛争終結から10年、エスニック社会運動の経験も蓄積されつつある。左派の地盤はあるものの、左翼政党の凋落も著しい。

ボリビアやエクアドルとの相違は、グアテマラでは先住民族が多くのエスニック集団に分かれているうえ、主要4集団が地域的にそれぞれ集中して居住しているために、エスニック集団を横断して団結を達成しうる全国的な運動や政党、指導者が出現しにくい点であろう⁷。また、比較的早い時期から先住民市長が数多く誕生しており、分権化がもたらす便益をめぐって地方政治が主たる政治闘争の舞台として定着している点も、全国レベルでのエスニック政党の結成を困難にしている。さらに、先住民運動が主として土地獲得を掲げる運動と、文化的権利を掲げる運動に二分化して、往々に相対立しているという点も社会運動が政党のベースになりにくいという土壌をつくりだしている。とりわけ、先住民運動の進展から農地紛争拡大への展開を予期して危惧する歴代の支配集団が、98年に憲法改正の試みを頓挫させた点もエスニック政党結成への勢いを低下させた。

グアテマラにおいてもエボ・モラレス大統領誕生の影響は強く、エスニック社会運動の大同団結から先民政党の誕生というシナリオが現実味を帯びる可能性も否定できない。この動きを先住民族の権利の確立、民主主義の深化、脱植民地主義や貧富の格差の是正といった視点から歓迎して待望する立場がある⁸。その一方で、エスニシティを軸とする社会的亀裂が政治化することは、一般的に、政治システムの分裂を深め、政治的混乱と経済的低迷をもたらすとして懸念する立場もある。

当面は、地方政治の場で高い評価を受ける先住民市長の活動や地域開発の成功事例に注目することで、エスニック政党結成への土壌と機が熟す可能性の有無を見守りたい⁹。

(こざき・ともみ 専修大学教授)

¹ 大統領選挙におけるメンチュウの得票数と、同時に行われた所属政党であるEGの全国区議員選挙での得票数をくらべると、前者は後者にくらべて92%も少ない。これは政党としてのEG人気の反映ではなく、メンチュウ個人の不人気と見るべきであろう。

² Acemoglu and Robinson 2006.

³ B'qtun 2004.

⁴ 先住民市長の所属政党をみるとFRG, PANなどクライアンテリズムを基本的な行動様式とする右派政党が圧倒的に多い。また、選挙のたびに出馬政党を変えるような機会主義的行動も顕著である。

⁵ Moore, ed. 2006. を参照。

⁶ Van Cott 2005: 222, Figure 7.1.

⁷ 実際、いくつかの政治意識調査によれば「先住民」ないし「マヤ」という帰属意識は希薄であり、コミュニティかそれ以下の単位をベースにアイデンティティが形成されている。また、中央政治への関心も低い。

⁸ Hale 2002.

⁹ グアテマラの通信社 Infopress が発行する *Boletín municipal* は貴重で有益な情報源である。

参考文献

- Acemoglu, Daron and J. A. Robinson. 2006. *Economic origins of dictatorship and democracy*. Cambridge University Press.
- B'qtun. 2004. No.12, Octubre.
- Hale, Charles. 2002. "Does multiculturalism menace? governance, cultural rights and the politics of identity in Guatemala". *Journal of latin american studies*. Vol. 34.
- Moore, Mick, ed. 2006. *Changing Paths: International Development and the New Politics of Inclusion*. University of Michigan Press.
- Van Cott, Donna Lee. 2005. *From Movements to Political Parties: The Evolution of Ethnic Politics*. Cambridge University Press.